

8 価値教育科目 (宗教など)

*エジプトで信仰されている主な宗教は、イスラームとキリスト教です。国民の約 9 割がスンナ派イスラームを信仰しており、残りの 1 割の中で一番多くの信者がいるのがコプト・キリスト教であるといわれます。エジプトの学校教育では「宗教」の学習を特別に重視しており、教育基本法にあたる 1981 年法第 139 号では、「(エジプトにおける初等・中等教育の目的は)神と祖国を信じるエジプト人を育むこと」(第 2 条)を教育目的としています。実際のカリキュラムでも、「宗教」の教科は全ての学年で基本的に週 1 時間以上は学習します。「宗教」は各学校の進級・卒業試験でも必修で、例えば医者や弁護士などどんな職業を目指していたとしても(宗教家を目指しているわけでもなくとも)「宗教」の試験に不合格になると学校を卒業することさえできません。

*「宗教」の教科はイスラームとキリスト教で教科書が分かれており、子どもたちは信仰する宗教によって別々の教室で学びます。この「宗教」のカリキュラムの策定には、教育・教育技術省だけでなく宗教組織であるイスラーム総合機構のアズハルや、コプト・キリスト教会も関わっています。これらの宗教組織は将来宗教家を目指す人を養成する独自の教育機関を持っており、そこで培われてきた独自の宗教教育の伝統が一般学校での「宗教」の学びにも大きな影響を与えているとみられます。例えば、イスラームの宗教教育の中では、教育方法として聖典クルアーンの暗記や読誦(正確な読み方)が重視されています。また、使用されるテキストとしてはクルアーンの他、預言者ムハンマドの言行録や有名なイスラーム教徒の伝記が用いられています。これらはアズハルの名前のルーツになったアズハルモスクの中で、中世以来学生が学んできた内容です。公立学校で「宗教」の時間に学ばれる宗教教育の伝統は、暗記中心の学びを批判して「批判的思考」を身につけさせようという近年の教育改革の流れとは一線を画しており、エジプト的な伝統に根ざす学習の価値を体現した一部であるように思います。

*学校で宗教をいかに教えるべきかはしばしば国民的議論になります。議論の論点は指導方法から内容までさまざまなレベルがありますが、そもそも「宗教」の時間は学校教育の価値教育のあり方として最適なのかという論点もあります。実際の教育内容は子どもたちの日常風景に合わせてテーマが設定され、そこに宗教的な教えと結びつけたある種普遍的な倫理や規範を教えるような中身も多いです(約束を守ろう、公共の場はきれいに使おうなど)。とはいえ、上述の通り、現状エジプトの公立学校では、「宗教」は子どもの信仰する宗教の教義にあわせて特定の宗派教育を実施する側面もあります。そのため、イスラーム教徒とキリスト教徒が同じ教科書を使って宗派に関係なく学べるような内容にした方が良いのではないかという意見もあります(内田, 2021)。近年の教育改革の中では、カリキュラムの見直しも進んでおり、小学校低学年向けに一般的な価値教育を行う『価値と他者への尊重』のような教科も登場しています。他方で、「宗教」という教科を信仰の垣根を超えて教える案には、宗教学の知的な伝統を重視する立場からは各宗教が持つ特性を無視することにつながるとして反対意見も根強く、従来の宗派教育が今日も続いています。

- 内田直義(2021)「コラム 1 教科書と宗教教育」千葉悠志・安田慎 編著『現代中東における宗教・メディア・ネットワーク: イスラームのゆくえ』春風社。